

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター高丘担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和7年7月3日（火） 14時00分 ～ 15時30分
2 開催場所	北部協働センター 第2・3講座室
3 参加者	25名 協議体委員15名、関係機関10名（浜松市高齢者福祉課1名、中央福祉事業所長寿支援課2名、地域包括支援センター高丘3名、市社協地域支援課1名、市社協浜松地区センター3名）
4 協議の内容	① 認知症にも地域にも優しい街づくりについて ② 地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>(1) 協議体会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口推移と萩丘地区の人口推移について ・地域包括ケアシステムと生活支援体制整備事業について ・今後の地域課題 ・令和6年度第3回協議体会議の振り返り <p>(2) 「認知症にも優しい“まち”づくり」への取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にも通信について振り返り ・にも通信第2号の進捗状況について <p>→ 事務局が作成した「にも通信2号」の案を委員に伝え、グループワークにて掲載内容やレイアウトについて意見を集約することを伝えた。</p> <p>(3) 今年度協議体のテーマ説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み」 <p>△選定理由</p> <p>昨年度第3回目の協議体会議で、一人暮らしのことを話したくない人、身寄りのない高齢者が増加していること、家族関係の希薄化などにより、家族間で解決するのが難しく感じることもあること、地域に溶け込めていない人がいること、一人暮らし高齢者など、家族に頼ることが困難な人への対策が必要ではな</p>	

いかと意見が出る。そうした意見を踏まえ、地域の中で一人暮らしの高齢者が増加すると見込まれる中で、既存のサービスだけではなく、社会資源、地域の関わりを活かしながら、少しでも孤立することなく、地域で安心した「ゆるやかな見守り」の構築のため、本テーマを設定した。

(4) 地域包括支援センター高丘 より

- ・ 地域ケア会議から見える課題

(5) グループワーク

① にも通信第2号について

② 今年度テーマについて

1) 地域で孤立について聞いたことがあるか

2) 地域でつながりを持って暮らしていける仕組み・社会資源について

※既存の仕組みでも可

① にも通信第2号について

- ・ 回覧板で回すものが多いので、回しても見ない人が多い。
- ・ 目的、アウトプットを要検討。
- ・ チェックリストに本人と家族も加えた方が良いのではないかな。
- ・ チェックリストの多くの項目にチェックがついた方は、「相談してほしい」ということか。
- ・ 手元に残ってありがたい情報が多いと嬉しい。
- ・ 認知症の方が行くことのできる居場所等の情報を載せる予定であったのではないかな。
- ・ 関心の少ない人にも目に止まってほしい。
- ・ 自治会で班長が回しても取らずに戻ってくるので、部数を確認してみてはどうか。
- ・ 全戸配布の見直しは必要。
- ・ インターネットで閲覧できると良い。(バックナンバーも含め)
- ・ 相談先は何の相談先かわからない。
- ・ 自治会に配布するだけでなく、協働センター、サービスセンターにも配布した方が良い。
- ・ どのくらいの方が本当に見ているのか。
→シニアクラブ、サロンなどでチェックするのが良いのではないかな。
- ・ 若い世代の人にもみてほしい。
→目立つように、色を変えるなど
- ・ 裏面があることを記載した方が良い。
- ・ QRコードを活用する。
- ・ 「咀嚼する」→「よく噛むこと」にした方がわかりやすい。
- ・ 相談先→「どういったことが相談できるか解説がほしい」
- ・ 表面と裏が分かれている感じ。
- ・ チェックリストにチェックが付いた方はこちらへと表記した方が良い。
- ・ 見てもらえるような仕掛け。(キャッチコピーなど)
- ・ 認知症に特化した内容にするならば、認知症の相談先として明記する方が分かりやすい。

② 今年度テーマについて

- 1) 地域で孤立について聞いたことがあるか。
- ・敬老会 496 名 調査対象 非自治会員は孤立する傾向
 - ・付き合いを拒否する人がいる。
 - ・マンションの住民台帳は住民から反対される。
 - ・孤立と一人でいることは別。必ずしも悪いことではない。
- 選んで一人で過ごしている方もいる。「人が来たら迷惑」、「自由にしたい」
- ・自ら拒否している人が心配。
 - ・孤立している人は誤解・遠慮している人もいる。
 - ・自治会に入っていない人。
 - ・積極的につながりにいけない人。
 - ・一人でいると夜倒れたとき心配という声を聞いたことある。
 - ・アパートの単身高齢者は孤立のイメージが高い。
 - ・民生委員が回っているが、中には漏れていることもある。
 - ・孤立の定義がわからない。
 - ・管理会社が管理している建物は情報が入らないのと、電話しても教えてはくれない。
 - ・昨年、近所付き合いのないアパート暮らしの単身高齢者が死亡していた。

2) 地域でつながりを持って暮らしていける仕組み・社会資源について

※既存の仕組みでも可

- ・民生委員が実態調査のときに話すが、全てを担うのは大変。インターホンを押しても出ない。
→いつもと違う様子ならすぐに包括につなぐ体制。
- ・地域活動に関わる人は地域とつながりやすい。
- ・本人の要望で単身世帯の高齢者が近所の住民などに個人情報も共有しても良い仕組みの開発。
- ・平時のつながりがあると良い。(他の人に自身のことを話せるなど)
- ・高齢者自身が元気で過ごしてもらうことが大事。(シニアクラブ、健康マージャン)
- ・グランドゴルフなどで若い世代と交流する。
- ・自治会、民生委員活動で認知症予防。
- ・地区社協で3世代交流のボッチャ対決等の交流会を行うのも良いかもしれない。

5. 事務連絡

- ・令和7年度 令和7年度委員報酬について
- ・第2回協議体会議は令和7年10月～11月を予定。

6. 閉会

5 今後の見通し・ 必要な対応

第2回協議体会議について

主に以下2点を話し合う。

①にも通信第2号について

- ・内容・意見集約した案を事務局で作成し、再度委員に確認いただく。
- ・配布先の選定。

- ・ 発行に向けた最終調整。
- ②「地域で孤立することなくつながりを持って暮らしていける仕組み」について
- ・ 第1回目協議体で出た意見等の振り返り。
- ・ 地域でつながりを持って暮らしていける仕組み・社会資源の検討。